

福知山線列車事故について

2005年4月25日、弊社は、106名のお客様の尊い命を奪い、500名を超える方々を負傷させるという、極めて重大な事故を惹き起こしました。改めましてお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆様、お怪我をされた方々のご家族の皆様に、心より深くお詫び申し上げます。

あわせて、事故に関して多大なるご心労、ご迷惑をおかけいたしましたお客様や地域の皆様方に、心からお詫び申し上げます。

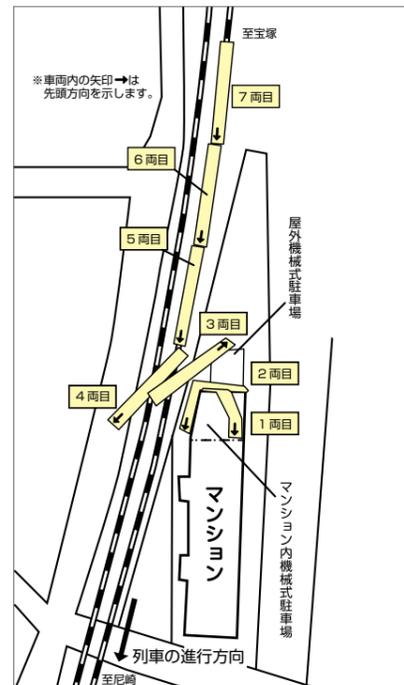
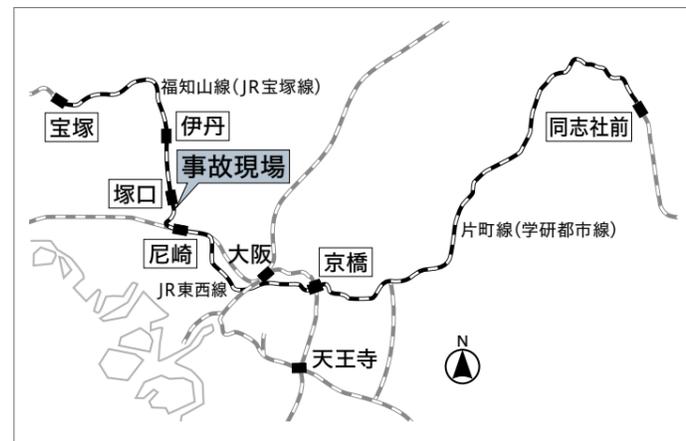
弊社としては、被害に遭われた方々に精一杯対応させていただくとともに、2013年3月に策定した「JR西日本グループ中期経営計画2017」(以下、「中期経営計画」)および「安全考動計画2017」(以下、「安全考動計画」)のもと、さらなる安全対策の充実、企業風土の変革に取り組んでおります。

そして、この事故を深く心に刻み、お客様のかけがえのない尊い命をお預かりしている責任を強く自覚し、安全第一を積み重ね、お客様から安心、信頼していただける鉄道を築き上げることに全力を挙げて取り組んでまいります。

概要

- ・発生日時
2005年(平成17年)4月25日(月) 9時18分ごろ 天候 晴
- ・発生場所
福知山線 塚口駅～尼崎駅間
尼崎駅起点上り 1k805m付近 (兵庫県尼崎市)
- ・関係列車
宝塚駅発同志社前駅行き 上り快速 電第5418M列車 (207系7両編成)

- ・概況
電第5418M列車は、塚口駅～尼崎駅間において、半径304mの右曲線に制限速度70km/hを大幅に超える116km/hで進入し、先頭車両から5両目車両までが脱線、先頭車両と2両目車両が進行方向左側のマンションに衝突しました。
この事故により、106名のお客様がお亡くなりになり、運転士1名が死亡しました。さらに、562名のお客様と付近をご通行中の方1名にお怪我を負わせてしまいました。



事故後の対応

安全性向上の取り組み

安全性向上計画

福知山線列車事故後、直ちにこれまでの取り組みを振り返り、反省すべき点や課題を踏まえて、より安全性を向上させるための課題を抽出し、できることから早急に実施すべく、「安全性向上計画」を策定し、推進してきました。

安全基本計画

航空・鉄道事故調査委員会(当時)から「鉄道事故調査報告書」が示されたことを契機として、2008年に「安全基本計画」を策定し、「お客様の死傷事故ゼロ、社員の重大労災ゼロ」に向けた体制の構築を到達目標として、リスクアセスメントの導入をはじめ、コミュニケーションの改善やヒューマンファクターの理解の浸透などに5年間取り組みました。

安全考動計画

事故後のさまざまな振り返りや反省、社内外の新たな知見や経験などを踏まえ、福知山線列車事故のような事故を二度と発生させないという決意のもと、「安全考動計画」を策定しました。JR西日本グループの鉄道サービスをご利用いただくお客様を安全に目的地までご案内するとともに、その業務に携わる誰もが「大怪我や死亡に至ることがないよう、今後5年間の目標を数値化したうえで、具体的な取り組み内容を定めました。安全は、役員・社員一人ひとりの努力によって維持し、向上させていくものである」という認識のもと、全員参加で計画を推進しています。

⇒「安全考動計画」についてはP25に記載しています。合わせてご覧ください。

被害に遭われた方々への対応

現在、ご遺族様をはじめ被害に遭われた方々に対しては、専任組織である「福知山線列車事故ご被害者対応本部」で対応させていただいており、お一人おひとりのご意見などを丁寧にお伺いしながら、精一杯の対応に努めております。

追悼慰霊式の開催

2005年9月に「慰霊と安全のつどい」を開催し、その後、毎年4月25日には「追悼慰霊式」を開催しております。また、式典終了後には、例年一般の方々などからの献花も頂いております。

ご説明会などの開催

弊社の課題や取り組みなどについて、被害に遭われた方々にご説明申し上げ、ご意見などをお伺いさせていただく場として、社長以下の役員などが出席するご説明会などを開催しております。

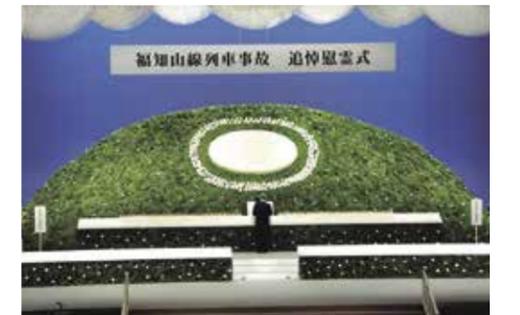
心のケアの取り組み

今も深いお悲しみ、お苦しみのなかにいらっしゃるご遺族様をはじめ被害に遭われた方々に、少しでもお役に立てていただけるよう、社外の専門家のご協力をいただきながら「心のケアの取り組み」を行っております。

事故を踏まえての地域のお役に立つ取り組み

事故を惹き起こしたことから、さまざまな方々や地域社会に大変なご迷惑をおかけしたことを踏まえ、2009年4月にJR西日本あんしん社会財団を設立し、市民の方々を対象とした心身ケアの取り組みや安全基盤形成に関する研究助成などを行っております。

⇒JR西日本あんしん社会財団についてはP38に記載しています。合わせてご覧ください。



追悼慰霊式



献花をする弊社社長

事故を心に刻み考動していく取り組み

福知山線列車事故から10年が経過し、事故後入社した社員がJR西日本単体で3分の1を超える状況となったなか、この事故を将来にわたって決して風化させず、社員一人ひとりが事故の重大性と安全の重要性を肝に銘じ、安全性向上と信頼回復に向けた取り組みを実践していくために、JR西日本グループ全体で事故を心に刻み考動していく取り組みを継続しています。

毎月25日を「安全の日」と定め、安全に関する学習や系統を越えたディスカッションなど、各職場で工夫した取り組みを行っています。特に、毎年4月25日を迎えるにあたり、福知山線列車事故から学び心に刻むための研修を全職場・グループ会社で実施しています。また、福知山線列車事故の反省点や課題を認識し、これらを踏まえた安全性向上の取り組みなどについて学び、社員一人ひとりの業務につなげていくことを目的に、「鉄道安全考動館」や事故現場において安全研修を実施しています。

加えて、被害に遭われた方々への対応を行ってきた社員が中心となって、事故の悲惨さなどについて語り継ぐことを目的に特別講義を実施しています。また、ご被害者に直接講話していただき、その講話を収録したDVDを視聴するなど、社員がご被害者のお声やご意見をお聞きする機会も設けています。さらに、社員一人ひとりがこの事故の重大性や安全の重要性を一層強く認識するため、弊社社員およびグループ会社社員が自主的に事故現場を訪れて献花を行っているほか、献花台の前に立哨して献花を訪れる方々をお迎えする取り組みも継続しています。



事故現場での研修



献花台での立哨

⇒鉄道安全考動館における安全研修については、P28に記載しています。合わせてご覧ください。

事故後の対応

国土交通省 運輸安全委員会(前航空・鉄道事故調査委員会) 2005.4.25 福知山線列車事故	05.9 「鉄道事故調査について(経過報告)公表」 「建議」	05.11 「安全性向上計画」の着実な実施についての報告	06.3 鉄道事業法改正 「新たな「企業理念」」「安全憲章」制定	06.10 「運輸安全マネジメント評価(第1回)」実施	06.10 「JR西日本グループ中期経営目標」の見直し	07.2 「意見聴取会」開催	07.6 「鉄道事故調査報告書」公表 「建議」「所見」	07.10 「運輸安全マネジメント評価(第2回)」実施	07.4 「鉄道安全考動館」開設	07.6 「鉄道安全報告書」公表 「最終報告」取りまとめ2007年	07.7 「安全諮問委員会」開催	07.9 「安全推進有識者会議」開催	08.2 「安全推進有識者会議」提言	08.4 「安全基本計画」策定	08.5 「JR西日本グループ中期経営計画2008・2012」策定	09.10 情報漏えい等に係る国土交通大臣への報告	09.11 情報漏えい等に係る国土交通大臣への報告	09.12 企業再生推進本部、企業倫理・リスク統括部の設置	10.10 「JR西日本グループ中期経営計画2008・2012」の見直し	10.12 情報漏えい等に係る国土交通大臣への報告	11.4 運輸安全委員会の検証チームが「不祥事問題の検証と事故調査システムの改革に関する提言」を公表	12.11 13.4 「追悼慰霊式」開催	13.3 「JR西日本グループ中期経営計画2017」「安全考動計画2017」策定	15.4 「JR西日本グループ中期経営計画2017」進捗状況と今後の重点取り組み(アップデート)公表
	05.5 「安全性向上計画」策定 「安全諮問委員会」開催 「福知山線列車事故相談室」の設置	05.6 第1回「安全諮問委員会」開催 「お詫びと今後の取り組み」の「説明会」開催	05.10 「安全性向上計画」の進捗状況等の「説明会」開催	06.1 「地区別懇話会」開催	06.3 福知山線列車事故「被害者対応本部」の設置	06.4 「追悼慰霊式」開催	06.7 「報告会」開催	07.4 「追悼慰霊式」開催	07.8 「説明会」開催	08.4 「安全基本計画」の「説明の場」開催	08.4 「追悼慰霊式」開催	09.4 「追悼慰霊式」開催	09.8 「説明会」開催	09.10 「お詫びの会」開催	09.12 「説明会」開催	10.4 「追悼慰霊式」開催	10.12 「説明会」開催	11.4 11.11 「追悼慰霊式」開催	12.4 「追悼慰霊式」開催	12.11 13.4 「追悼慰霊式」開催	13.5 「安全考動計画2017」に関する「説明会」開催	13.11 「説明会」開催	14.4 「追悼慰霊式」開催	14.11 「事故現場に関する説明会」開催

ご遺族様の特別講話をお聞きした新入社員の決意

お話を伺いし、これから当社の社員として働くうえで、「福知山線列車事故のような事故を二度と発生させない」ために、一切妥協してはいけません。「起こる可能性が0%でない以上、その事象は起こり得る」との考えのもと、どんなに些細なことでも、放置すれば最悪の場合どうなるのか、重大な事故につながりはしないのかということを常に意識して、日々の業務に取り組みます。

また、鉄道は一人ではなく、非常に多くの関係者の協力のもとで運営されているものであり、100人中99人が正確に業務をしていても、1人が不正確な行動を取れば、重大な事故につながる危険性を持つ事業であります。ご講話の中にありました「鉄道のプロ」とは、私なりには「自分だけがプロになるのではなく、周りの人々をもプロにしていく」ことだと思います。そうして、周りの人々とともに胸を張って、「世界一安全な鉄道である」といえる鉄道を作り上げていきます。(加古川駅 運輸管理係 平松 晃次)

「福知山線列車事故のような事故を二度と発生させない」ことはJR西日本グループの責務であり、変わらぬ決意です。そして、グループで働く一人ひとりがこの決意を胸に、事故から学び、心に刻んだことを日々の業務の中で実行していくことが極めて重要であると認識しています。

被害に遭われた方々への対応については、引き続き弔問やお見舞いなどを通じご被害者の思いを丁寧かつきめ細かく受け止めていただくよう、努めてまいります。また、将来にわたってご被害者のさまざまなご意見などをお伺いし、ご相談に応じることができるよう、対応の窓口を堅持してまいります。

「中期経営計画」においても、経営の3本柱である「被害に遭われた方々に誠心誠意と受け止めていただけるような取り組み」「安全性向上に向けた取り組み」「変革の推進」を、引き続き経営の最重要課題と位置づけています。今後とも、お客様に安心・信頼してご利用いただける鉄道を築き上げるため、日々の弛まぬ努力を積み重ねてまいります。

事故現場の整備について

事故現場は、弊社が多くのお客様の尊いお命を奪い、大変なお怪我を負わせてしまった場所です。お亡くなりになられた方々を慰霊・鎮魂するのにふさわしい場所となるよう、また安全構築の原点として弊社役員および社員が安全を誓い、社会や後世にのちのちの大切さを伝え続けていく場所となるよう整備してまいります。



事故現場の整備イメージ図(植樹後間もない段階)